

長野市屋外広告物ガイドライン

商業業務地景観	
長野駅周辺地域	<ul style="list-style-type: none"> □建物と一体的に見えるように、屋上広告物は突出せず、設置位置を揃え、地色を壁面と同系色にします。 □建物の壁面を見せるために、建物の2・3階以上の壁面には出来る限り広告物を設置しないようにします。 □広告物で窓面をふさがないようにします。 □室内から貼られた窓面を飾る広告物は、街並みとの調和と程合いを考慮して設置します。 □複数の壁面袖看板を設置する場合は、デザインや地色を揃えます。 □地上設置広告物は一つにまとめ、建物と一体的なデザインに見えるようにします。
中央通周辺地域	<ul style="list-style-type: none"> □店舗の広告物は、建物の1階部分に出来る限り揃えます。 □建物と一体的に見えるように、屋上広告物は突出せず、設置位置を揃え、地色を壁面と同系色にします。 □非自己用広告物の設置は出来る限り控えます。 □建物と一体に見えるように、地色は壁面と同系色にして箱文字などで演出します。 □壁面袖看板は造形的な看板をつくり、街並みを演出します。 □歴史的街並みはでは、下屋上や軒下などに揃えます。 □伝統的な広告物からデザインを取り入れ、質の高い広告物をつくります。 □歴史的建物を覆う看板、いわゆる看板建築としないようにします。
長野大通り地域 環状通り周辺地域	<ul style="list-style-type: none"> □街並みを意識して、屋上広告物が突出しないよう設置位置を揃えます。 □屋上広告物は、建物と一体に見えるように地色を壁面と同系色にします。 □地上設置広告物は一つにまとめ、建物と一体的なデザインに見えるようにします。 □建物の表情を見せるために、広告物は建物の1、2階部分に揃えます。また、広告物で窓面をふさがないようにします。 □複数の壁面袖看板を設置する場合は、デザインや地色を揃えます。 □店舗用の壁面袖看板は造形的な質の高いデザインとし、街並みを演出します。
篠ノ井駅周辺地域	<ul style="list-style-type: none"> □2～3階の建物で揃っている街並み景観を継承します。 □屋上広告物の設置は控えます。 □非自己用広告物は原則として設置しないようにします。 □建物の表情を見せるために、広告物は建物の1階部分に揃えます。 □広告物で窓面をふさがないようにします。 □壁面広告は、建物と一体に見えるように、地色は壁面と同系色にして立体的な文字で演出します。 □プランター、緑、ベンチ、スタンド型広告（立看板）を効果的に設置して街を楽しめます。
沿道等複合市街地景観	
沿道型商業施設 立地地域	<ul style="list-style-type: none"> □地上設置広告は出来るだけ高さを抑えて一つにまとめます。 □建物全体が広告物にならないようにし、壁や屋根が分るような建物とします。 □壁面広告物や屋上広告物などは、突出せず、出来るだけ集約し、位置を揃えます。 □沿道からの広がり景観と見通しの良い沿道は、広告物を控えめにします。 □建物と一体に見えるように、屋上広告物は地色を壁面と同系色にします。
住宅地景観	
住宅地地域	<ul style="list-style-type: none"> □壁面袖看板や地上設置型広告は、周囲の家並みの連続性に配慮した高さとし、 □壁面袖看板は1階軒下の高さとし、出来れば、表示面積の小さい壁面広告物、高さを抑えた地上設置広告物が望まれます。
歴史的街並み景観	
善光寺周辺地域	<ul style="list-style-type: none"> □壁面を利用した広告物、下屋上に設置した広告物で歴史的街並みの雰囲気をつくります。 □大きすぎる壁面袖看板は、斜め横から見ると建物の壁面を隠してしまいます。出来る限り広告物の高さを軒先より下げ、出幅も軒先以内に納めます。 □暗がりでも歴史的街並みを演出するような照明方式を工夫します。 □広告物の色は無彩色系、茶系を基本に、伝統色を加えた3色以内の配色でまとめます。
大門地域	<ul style="list-style-type: none"> □瓦屋根が連続する街並みでは、最上階への屋上広告物設置は控えます。 □広告物は下屋上や軒下に揃えます。 □非自己用広告は原則として設置しないようにします。 □広告物の高さを軒先より下にし、出幅も軒先以内に納めます。 □造形的な看板により街並みを演出します。 □伝統的な広告物からデザインを取り入れます。 □広告物の色は無彩色系、茶系を基本に、伝統色を加えた3色以内の配色でまとめます。
松代地域	<ul style="list-style-type: none"> □歴史的街並みの雰囲気を感じさせるように、壁面を利用した広告物、下屋上に設置した広告物とします。 □最上階の屋根への広告物の設置は避け、 □街並み景観に調和するように大きさ、色、素材、位置に配慮します。 □広告物の色は無彩色系、茶系を基本に、伝統色を加えた3色以内の配色でまとめます。
郊外地景観	
農村地域	<ul style="list-style-type: none"> □農村風景を遮り必要以上に高く大きな広告は設置しないようにします。 □必要な広告は出来る限り広がり遮らない場所に設置するようにします。 □広告物で被う建物とせず、農村に調和する建物とします。 □地上設置型広告は建物より突出しない高さとし、一つにまとめます。